

昨年5月、奈良市鴻ノ池陸上競技場（ロートフィールド奈良）は第一種公認を更新するためリニューアルされ、外周にランニングコースが整備され、スケートボード専用施設が新設された。そして今年2月、競技場に高さ40メートルを超える照明塔4基を設置し、1500ルクスの光線が、昼と変わらない明るさを照らしている。総工費はおよそ6億円という。

また本年度は、場外利用者の更衣室となるランニングステーションの設置と、サブグラウンドの芝生化の工事も進められ、間もなく完成を迎える。

1951（昭和26）

年、国際文化都市奈良市にふさわしいスポーツ施設の建設を目指す期成会を設置して活躍

地域に貢献できる スポーツクラブの育成

された先人の思いが、70有余年の歳月を経て、今実現している。スポーツ施設の建設は、やれやれすれば華やかなメディア受けする「見るスポーツ」に目が行くが、日常生活の中で手軽にスポーツができる「するスポーツ」の視点を欠いてはなら

ず。昨今の地域社会は少子高齢化が進み、地域の人間関係の希薄さは大きな社会問題となっている。スポーツをする人には、これら地域社会と向き合いスポーツを通して、自分のこと、自分たちのこと、そしてみんなのことを考える仲間づくりの活

えを常に持つクラブでなくてはならない。新装の鴻ノ池陸上競技場には、サッカーJ3で活躍する「奈良クラブ」が本拠地として、また2003年誕生した陸上競技の「鴻ノ池スポーツクラブ」が定期的に活動している。また、同クラブで活

仲間づくりの活動期待

ない。するスポーツの環境、施設のある街は楽しい街であるともいわれる。

動が期待されている。地域社会の多様化、複雑化は、その対応を「官」に委ねるだけでは十分な解決が望めないことは、40年前の阪神淡路大震災ボランティア団体の活動が実証している。

動してきた中高年の仲間が、08年「NPO法人ならスポーツクラブ」を設立し、2年後に迎える「平城遷都1300年祭」（10年開催）の催しとして、鴻ノ池陸上競技場を拠点に二つのスポーツイベントの企画を立ち上げた。一つは「奈良マラソン」、そしてもう一つは「50mタッシュ王選手権 in 奈良」。両

一方スポーツをする側立つ人も、いつでも手軽にスポーツのできる環境を求める中で、一人で楽しむスポーツから、みんなで楽しむスポーツ環境、すなわちスポーツクラブづくりを目指すことが求められる。

特に、公共施設を拠点とするスポーツクラブは、スポーツを通して地域のために何ができるか、いろいろな考

えを常に持つクラブでなくてはならない。新装の鴻ノ池陸上競技場には、サッカーJ3で活躍する「奈良クラブ」が本拠地として、また2003年誕生した陸上競技の「鴻ノ池スポーツクラブ」が定期的に活動している。また、同クラブで活

大会は、クラブ員とともに、多くの関係者の努力があつて開催。今年は、どちらも15年目の大会となる。

発展している。今年も奈良マラソンは12月8日（日）、50mタッシュ王選手権は5月6日（月曜振替休日）に開催する。50mタッシュ王の募集はすでに終盤、多くの申し込みが届いている。

奈良マラソンは全国に数あるマラソン大会の中でも、高い評価を受ける大会に、また50mタッシュ王選手権 in 奈良も、県内を中心に全国からの参加者も増えて、緑の映える好季節の鴻ノ池陸上競技場で、家族で楽しめる人気のイベントとして

二つの大会には地元市民が参加し（する、見る、支える）、日常生活にスポーツを取り入れるきっかけとしてほしい。

第4土曜日掲載



照明設備が整備されたロートフィールド奈良＝奈良市法蓮佐保山4